

令和3年度 自己評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実現状況の達成度判断基準	判 定 基 準	備 考
1 総合学科の特長を活かし、GIGAスクール構想を踏まえた、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業実践を通して、個々に応じた進路実現を目指す。	① 総合学科の特長を活かし、生徒の多様なニーズに合わせた科目選択や体験活動を通して、生徒の進路実現を図る。	進路指導 教務	1年「産業社会と人間」、2、3年「総合的な探究の時間」を利用し、体系的な進路指導を実施している。また例年、7月に1年次生、2月に2年次生保護者対象の進路説明会を開催している。その際、本校の進路指導状況と今後の流れを説明し、情報を保護者とも共有して、各生徒の進路実現につなげている。	【満足度指標】 総合学科の特長を活かし、科目選択や体験活動が生徒の進路実現に繋がっている。	総合学科として、科目選択や様々な体験が生徒の進路実現に意義あるものとなっている。 (ア) よくあてはまる (イ) ややあてはまる (ウ) あまりあてはまらない (エ) あてはまらない	(ア)+(イ)の% 90%以上 A 80%以上 B 70%以上 C 70%未満 D C、Dの場合、改善の検討を行う。	学校評価(生徒・保護者)で調査する。
	② 毎時間の授業において、学習目標、流れを明示し、振り返りをさせることで、学習内容の理解度と達成感を高める。	教務	前・後期の授業評価アンケート集計結果をもとに全教員が自身の課題と授業改善のための方策を考える機会を設けている。また、昨年度から、全教員対象に「校内研究授業」を実施し、事後は授業者、参観者による授業の課題についての意見交換を行っている。このような取り組みの結果、授業評価の平均値が上昇しており、授業改善が進んでいる。	【満足度指標】 授業が分かりやすいと回答する生徒が増える。	授業が分かりやすいと回答する生徒の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	C、Dの場合、改善の検討を行う。	生徒による授業評価アンケートで調査する。
	③ GIGAスクール構想に則り、従来のICT活用に加え、Chromebookを活用した授業の在り方について研究を進める。	教務	令和2年度後期の生徒による授業評価アンケートにおいて、「この授業は、ICTや学習教材を活用している」との質問項目に対する肯定的な回答の割合は78.6%であった。しかし、昨年度配備されたChromebookは未だ十分に活用されているとはいえない。今年度は、GIGAスクール構想の実現に向け、校内研修推進リーダーを中心にChromebookの効果的活用法の研究を進める。	【努力指標】 Chromebookを使って、学習効果の高い授業を行う教員が増加する。	年に2回Chromebookを使って授業を行った教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 (中間評価では1回の使用で評価する。)	C、Dの場合、改善の検討を行う。	学校評価(教員)で調査する。
	④ 個別進学指導や朝学習(マナトレ)、模擬面接等の充実を図り、個々の生徒に応じた進路志望を達成する。	進路指導 各学年	昨年度、進学では推薦で1名、一般入試で2名が国公立大学に合格した。今年度も、推薦入試を視野に入れながらも、生徒には原則、一般入試で志望校に合格できる学力をつけていきたい。就職希望者は、コロナ禍の状況にあっても内定100%を達成することができた。各生徒が自分に合った企業を選択できるよう、必要な情報を提供しながらきめの細やかなガイダンスを継続していく。	【成果指標】 ア 国公立大学進学者数 5名以上 イ 私立大学および看護・医療系上級学校進学者数 30名以上 ウ 就職内定率 100%	ア・イ・ウの3指標のうち A 3指標すべてを達成 B 2指標を達成 C 1指標を達成 D 3指標とも達成できず	C、Dの場合、改善の検討を行う。	3月に集計する。

令和3年度 自己評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実現状況の達成度判断基準	判 定 基 準	備 考
2 部活動や体験活動を柱に、生徒のコミュニケーション能力や規範意識、自律心の向上を図り、人間力の育成に努める。	① 登校指導や街頭指導、地域に出向いの活動等ですっきりと挨拶ができるよう指導を行う。	生徒指導 各学年	昨年度は新型コロナウイルスの影響で、生徒会や運動部による朝の挨拶運動が十分実施できなかったものの、毎朝の登校指導や街頭指導を通してみると、しっかりと挨拶できる生徒は増えてきている。校舎内でも部活動の生徒を中心にしっかりと挨拶しており、自発的な挨拶が浸透しつつある。今後は部活動の生徒だけでなく、学校全体で自ら率先して挨拶できる雰囲気を作っていく必要がある。	【成果指標】 「自ら進んで挨拶ができる」と生徒・保護者・教員が評価する。	自ら進んで挨拶ができると回答した割合が生徒・保護者・教員のうち A 3者とも80%以上 B 2者が80%以上 C 1者のみ80%以上 D 全て80%未満	C、Dの場合、改善の検討を行う。	学校評価(生徒、保護者、教員)で調査する。
	② 交通安全教室や街頭指導等を通して、交通ルールを守る指導を行う。	生徒指導	令和2年度、警察による交通違反指導の件数は一昨年より減少しており、他校と比べても少ない。しかし、街頭指導では、右側通行やイヤホンをつけての走行などが少数ではあるが見受けられる。事故件数も昨年度は前年度の8件から9件に増加している。被害者にも加害者にもならないという観点から、グッドマナーキャンペーンやPTAとの合同一斉指導、「交通安全教室」など様々な機会を捉えて、交通ルールについて粘り強く指導を行っていく必要がある。	【成果指標】 生徒は交通ルールを守って自転車に乗車している。	交通ルールを守って自転車に乗車していると回答した割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C、Dの場合、改善の検討を行う。	学校評価(生徒)で調査する。
	③ 部活動を通して、生徒の自律心を向上させ、人間力を育成する。	SCH (スーパー・コミュニティ・ハイスクール推進室)	部加入率は約90%だが、満足感や達成感を感じている生徒は全体で約70%であった。やはり、最後の大会がなくなったことが影響していると思われる。大会が通常通り実施されれば、もう少し満足感や達成感は高くなるであろう。部活動に主体的に取り組むことでさらに満足感や達成感を感じることができると思われるため、今年度も目標達成シートを作成して活用していく。	【満足度指標】 生徒が部活動に主体的に取り組む努力することを通して、満足感や達成感を得る。	部活動に対し、満足感や達成感を感じている生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合、改善の検討を行う。	学校評価(生徒)で調査する。
	④ 「学校いじめ防止基本方針」をもとに、いじめの問題に学校が一丸となって組織的に対応する。	生徒指導	いじめは必ずあるものと認識し、職員が共通意識を持って生徒観察や注意喚起を行う必要がある。発生時には、いじめ対策チームを中心に迅速かつ適切に対応するとともに職員全体で情報を共有する。昨年度は3件のいじめを認知したが、いずれも早い段階で組織的に対応することができた。いじめアンケートや「弁護士によるいじめ予防教室」、「インターネットトラブル防止教室」など機会をとらえて、いじめは絶対ダメであることを認識させる取り組みを、組織的に継続していく必要がある。	【努力指標】 いじめの未然防止に取り組み、発生時には迅速な対応をする。	いじめの未然防止に取り組み、発生時には必要な情報を共有し、迅速な対応をする教職員の割合が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	C、Dの場合、改善の検討を行う。	学校評価(教員)で調査する。

令和3年度 自己評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実現状況の達成度判断基準	判 定 基 準	備 考
3 SCH (スーパード・コミュニティ・ハイスクール) として、地域連携の充実や学校情報の積極的発信、学校業務の効率化を図り、保護者や地域に信頼される学校づくりを推進する。	① 地元自治体の行事や社会貢献活動への参加など、地域と連携した活動をより推進する。	SCH 総務	<p>昨年度は地域活動に参加する生徒の割合ではなく、活動後の満足度をアンケートで質問する予定であったが、コロナ禍の影響で地域活動が全くできない状況であった。</p> <p>能美市との地域連携としては、2年次生の「能美グローバル・コミュニケーション・プログラム」や生徒会執行部の生徒を対象に「男女共同参画学習会」、3年次生の「能美市議会との意見交換会(模擬議会)」などを実施した。これらの活動での事後アンケートでは「勉強になった」や「興味を持てた」などの回答が多かった。男女共同参画については全校生徒の前で成果発表を行い、学習会で学んだことを還元することができた。</p> <p>今年度は、事後アンケートだけでなく学年とも連携し、事前に勉強会を行うなどして地域連携活動への取り組み方を改善し、生徒の満足度をあげていきたい。</p>	【満足度指標】 生徒が地域の活動に積極的に参加し、その活動を通して生徒が満足感を得る。	地域の活動に参加する生徒の満足度の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合、改善の検討を行う。	それぞれの活動後に生徒にアンケートをとる。
	② ホームページの更新や学年や各課からの通信、メール配信を随時行い、学校の教育活動を積極的に発信する。	総務 SCH	<p>昨年度はコロナ禍の影響もあってか、ホームページのアクセス数が飛躍的に上昇しており、タイムリーできめ細やかな情報配信の必要性を感じる。行事等の動画の配信や、オンライン中継、紙媒体での情報発信を望む声もあり、情報発信の方法、内容ともに、検討とより一層の工夫に取り組みたい。</p>	【満足度指標】 本校の教育活動や取り組みに対する保護者の理解を得る。	広報活動(学校ホームページ、学年・各課からの通信、メール配信)を通して、学校の取り組みがよくわかると回答する保護者の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	C、Dの場合、改善の検討を行う。	学校評価(保護者)で調査する。
	③ 教員が担当業務に応じてタイムマネジメントの意識を高め、学校業務の効率化を推進することで、勤務時間外の労働時間を削減する。	教頭 各課主任 学年主任	<p>令和元年度、時間外勤務が45時間以上であった教員の延べ人数は203人で月平均にすると、16.9人であった。令和2年度は延べ人数で130人、月平均にすると10.8人で昨年度の約64%で、約35%減少した。時間外勤務の月平均時間は令和元年度40.3時間、令和2年度は31.2時間と、この数値も減少した。</p> <p>本校の職員はタイムマネジメントの意識を高め、教育の質を落とさずに、業務の効率化を図っていたと思われる。石川県教育委員会では昨年度末には時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指していた。本校では、11月～3月に時間外勤務が月80時間を超えた教職員はいなかった。</p>	【成果指標】 全教員が業務の効率化に向けてタイムマネジメントの意識を高め、より一層の時間外勤務の削減を図る。	時間外勤務が月45時間以上であった教員の月平均人数が A 5人未満 B 10人未満 C 15人未満 D 15人以上	C、Dの場合、改善の検討を行う。	教員の勤務時間記録で調査する。